

映画の世界を超える 宇宙とサイバー時代の到来

新しい疫病、新しい戦争。
かつて映画で語られたような時代を、
私たちはリアルタイムに生きています。

今まで想像しえなかったリスクに対応し、持続可能なビジネスを
実現するためには、地球規模のインテリジェンスが必要不可欠です。

そして、宇宙とサイバーという2つの空間は、
このインテリジェンスの最前線にあります。

スカイゲートテクノロジズは
次なる時代を攻略するスタートアップです



宇宙・防衛事業

防衛というアップストリームと衛星スタートアップをクロスさせる
インフラと安全保障・モニタリングの事業開発

サイバー事業

宇宙・防衛領域で培った高度なサイバー戦の技術とデータで
顧客のビジネスを保護する

SKYGATE TECHNOLOGIES

会社概要

宇宙+セキュリティの会社

クラウド地上局の事業化のため、VCからのシード調達を経て、2020年に創業。

宇宙(防衛含む) 及び セキュリティ関連事業を展開。



代表取締役

栗津 昂規 | Takanori Awatsu

元自衛隊 衛星通信・セキュリティ担当
セキュリティエンジニア

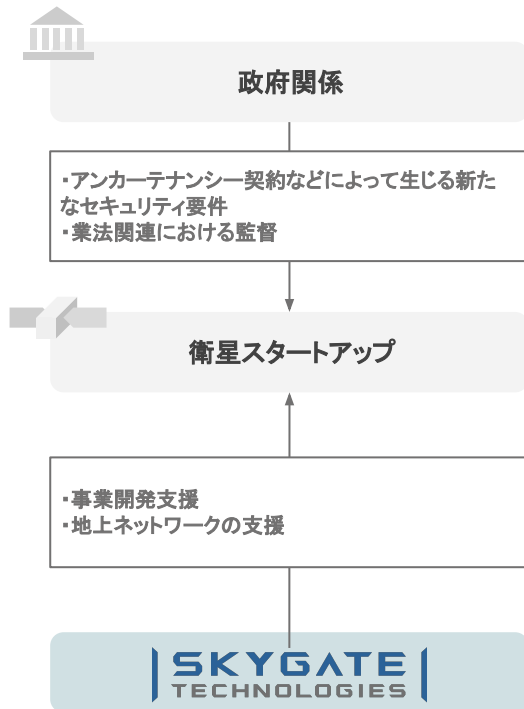
経済産業省 サイバーセキュリティ研究会 宇宙産業SWG部員

宇宙におけるセキュリティの
コンサルと構築支援の両方を提供する
(おそらく)日本で唯一の会社

本題 | ガイドラインの利用と活用について

当社における一例

当社を取り巻く環境(イメージ)



実際の活用(イメージ)

・全体として、共通認識の叩き台

セキュリティガイドラインにあるこの部分、といった使い方や全体の脅威・リスクのイメージ像を形成するにあたっての利用

・経済産業省の発簡という権威による合意形成(への期待)

細かいセキュリティ要件とその説明責任において「経産省のガイドラインではこうなっていますので」的な利用による落とし所(になると嬉しい)

・システム構築や設計時におけるリファレンス

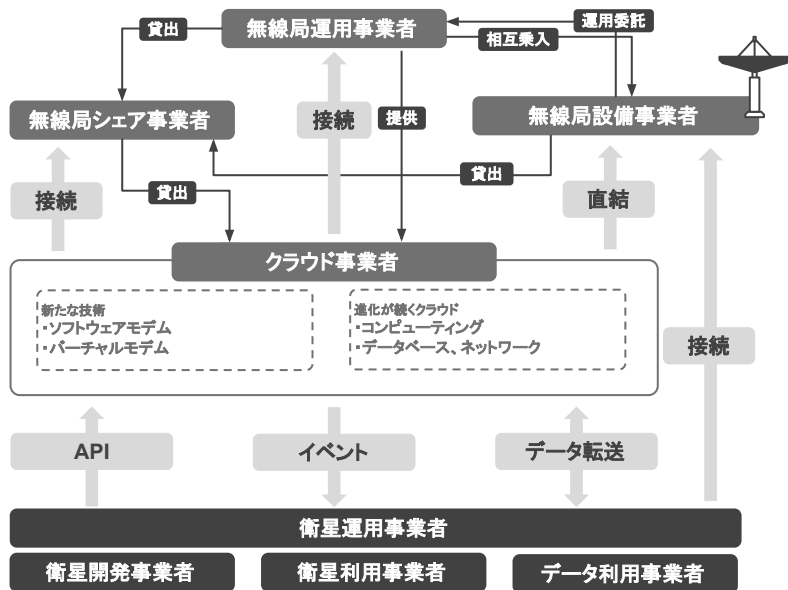
宇宙固有のシステム部分における技術的なリファレンスとしての活用。
また、情報交換における「ネタ」としての活用。

総じて、まだ出てから日が浅く業界が狭いこともあり、頻繁に活用するわけではないものの、比較的網羅性が高く、他に参照すべきリファレンスを探す際には非常に便利！という所感。

本題 | ガイドライン利用に感じる課題

様々な形態や変化への対応

地上セグメントにおける複雑化した事業者形態の例



・様々なサービス形態や新技術が登場しており、ステークホルダーも複雑化

・重厚長大だった市場に、より Web/ソフトウェア的な文法で参入する事業者が増えたため、両者のカルチャーギャップをガイドライン利用を通じて埋めていくコミュニケーションの土台として機能して欲しい

カルチャーギャップの例

- ソフトウェア事業を展開する会社では、技術的な対策に対しての温度感が高い一方、物理的対策や人的対策には温度感が低くなり、行政や大手ではその逆となる傾向がある
- 「地上局のAPI」「ソフトウェア無線のセキュリティ」など従来にないクロスオーバー的領域が急激に発展している。どちらのカルチャーでもフォローしていない部分について、ガイドラインで方向性が示されると助けになるのではないか。

他基準との互換性

・要件や基準との互換性(を気にする意見)

“ガイドラインを参照しながら構築したセキュリティが、どの程度ビジネスインパクトをもたらすか、分かりにくい。

特にスタートアップ的事業においては「とりあえずISMS」以上の対策に発展するための動機がない。取引が優位になる・取引で必要になるドリブンでのセキュリティのためにも、「これやってれば、こっちも満たせます」が分かりやすいとガイドラインとして使いやすい”という意見(概略)

